

シラバス情報

授業方法	講義・実験・ 実習		
系列	自動車整備作業		
科目名	シャシ電子制御実習		
必修・選択	必修科目 ・選択科目		
対象学科	一級自動車整備科		
年次学期・曜日・時限	3年前期	木曜日	1 時限～8 時限
時限数	1 2 1. 6 時限 (期末試験を除く)		
担当教員名	吉田 哲也・池上 健史・脇屋敷 竜太		
実務経験	有 ・無 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシ電子制御についての実習を実施する。		
授業の目的	自動車シャシ電子制御装置の電子制御式AT、電動式パワーステアリング、アンチロックブレーキシステム、オートエアコンディショナについて、基本と応用知識を活用した実践的な診断整備技術の手法を実習する。		
テキスト	①シャシ電子制御装置 ②二級自動車シャシ ③自動車定期点検整備の手引き (日本自動車整備振興会連合会 発行)		
授業計画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回～第2回	電子制御式オートマティック・トランスマッision 高度整備技術1	センサ、アクチュエータの名称・役割・構造・機能等 電源回路、テスタ取扱い、電気配線図、その他	①P9～ ②P18～
第3回～第4回	電子制御式オートマティック・トランスマッision 高度整備技術2	論理信号センサ、リニア信号センサ、周波数信号センサ等、オシロスコープ取り扱い、その他	①P14～ ②P56～
第5回～第6回	電子制御式オートマティック・トランスマッision 高度整備技術3	アクチュエータ点検、ラインプレッシャ測定、ストールテスト、その他	①P41～ ②P239～ ③P106～
第7回～第8回	電動式パワー・ステアリング 高度整備技術1	センサ、アクチュエータの名称・役割・構造・機能等 電源回路、テスタ取扱い、電気配線図、その他	①P199～ ②P189～
第9回～第10回	電動式パワー・ステアリング 高度整備技術2	論理信号センサ、リニア信号センサ、アクチュエータ点検、テスタ取り扱い、その他	①P202～
第11回～第12回	アンチロック・ブレーキ・システム 高度整備技術1	センサ、アクチュエータの名称・役割・構造・機能等 電源回路、ダイアグノーシス点検、テスタ取扱い、電気配線図、その他	①P87～ ②P33～
第13回～第14回	アンチロック・ブレーキ・システム 高度整備技術2	センサ、アクチュエータの名称・役割・構造・機能等 電源回路、テスタ取扱い、電気配線図、その他	①P147～ ③P45～
第15回～第16回	オート・エア・コンディショナ 高度整備技術	アクチュエータ点検、ダイアグノーシス点検、ST及びオシロスコープ取り扱い、その他	①P169～ ②P180～
	期末試験	第1回～第16回までの授業内容に関する実技試験	
到達目標	自動車シャシ電子制御装置の電子制御式AT、電動式パワーステアリング、アンチロックブレーキシステム、オートエアコンディショナについて、基本と応用知識を活用した実践的な診断整備技術の手法を修得する。		

成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、期末試験を合算して行う。				
定期試験受験資格	開講された全时限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した时限がある場合は、補講も完了している者。				
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が50点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について。次の割合で行う。</p> <table> <tr> <td>期末試験の点数</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>上記の割合によって学期末の評点が70点以上である場合、以下により評価する。</p> <p>70～79点=良、80～89点=優、90点以上=秀</p> <p>70点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで70点以上のとき履修を認定し、成績は70点=良とする。</p>	期末試験の点数	80%	平常点	20%
期末試験の点数	80%				
平常点	20%				
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、 又は、成績評価が70点未満の場合。				